

五月十一日（月）
俳句を楽しまう
俳句であつて

俳句について知り、声に出して楽しもう。

へ大切へ

俳句：五・七・五の十七音で作られた短い詩。

「季語」という、
きせつを表す言葉が入っている。

しぜんの様子や、
そこからの感じられること
があらわされている。

へふりかえりへ

五月十八日（月）
こそあど言葉を
使いこなそう

へめあて
こそあど言葉の
やくわりや
使い方を
知ろう。

へ大切

こそあど言葉：
何かを指し
しめす言葉
「どの」

たねるときに
は「どの」

へ自分の考え
遊ぶよ。

この牛に
ゆるく
ばつて。

・
・
・
・

○ま
自分や
相手と
のきよ
りや
って
使い
分け
る。

何を指し
しめす
か
に
よ
り
や
って
使
い
分
け
る。

そこ
話し
手
に
近
い
場
合

あそこ
相手
に
近
い
場
合

ど
は
っ
き
り
し
ら
な
い
場
合

場所
この
、
こ
れ

方向
こ
ち
ら
、
こ
っ
ち

様子
こ
ん
な
、
こ
う

へ
ふ
り
か
え
り
へ

五月二十日（水）

へんとつくり

へんとつくりについて知ろう。

へ自分の考え

・木へきへんけい：板、柱、言葉

・イへんべんけい、係、ある言葉

・水へさんずけい：油、港、言葉

へ大切

・へん：漢字の左がわにあつて、おおまかな意味を表す部分。

・つくり：漢字の右がわにおかれる部分。おおまかな意味を表すこともある。

・禾：和、秋、秒

へ同じへんやつくりをもつ漢字

へふりかえり

五月二十二日(金)

きつきの商売

へもんだい

「きつつき」が聞かせた音について

考えましよう。

①何の音か。

②どんな音か。

へめあて

「きつつき」が聞かせた音についてそうぞうし、

ようすがつたわるように音読しよう。

へ大切

○音読

登場人物のよきにつけよ、けりこと

もちをそうぞうする。

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

・音読するよきにつけよ、けりこと

五月二十五日(月)

きつきの商売

へもんだい

「きつつき」が聞かせた音について

考えましよう。が聞かせた音について

①何の音か。

②どんな音か。

へめあて

「きつつき」が聞かせた音についてそうぞうし、

ようすがつたわるように音読しよう。

「自分の考え」

「自分の場面」

①雨の音

②

②

「しんとだまって」と書いてあるから、

耳をすまさないで聞こえない音だと思いまし

た。音読するときは、少し小さな声で読

だから、音読するときは、少し小さな声で読

むと、いいと思いました。

へふりかえり

五月二十九日（金）	きつきの商店	へめあての	「3」の場面を作るなら、どのような物語にするかを考えよう。	へ自分の考え	登場人物	場所や天気など	音
					・店の人：きつつき ・おきやく：たぬき（二ひき）	・森のおく ・明るい月夜	・音を聞かなくていたたぬきたちが、楽しくなっていたおどりだす。
							・木をたたたく、元気な、「コツコツ」という音。

出来事など	・音を聞かなくていたたぬきたちが、楽しくなっていたおどりだす。	へチャレンジかだい	へふりかえり
		きぶなの森に、新しいかな夜がやってきました。きつつきは、新しいメユーを思いました。	

教科書の文しうや
言葉の使い方をまねしながら、
自分だけの「3」の場面の
物語を書いてみましょう。